



Title	Gender difference in the mediating effect of health-related behaviors on the relationship between neighborhood social capital and self-rated health among community dwelling people in a town of Okinawa(Review_審査要旨)
Author(s)	豊里, 竹彦
Citation	
Issue Date	2015-03-19
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/30594
Rights	

(様式第5-2号)

平成27年3月2日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏名 小林 潤

副査 氏名 辻野 久美子

副査 氏名 平井 到



学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 保健学	氏名 豊里 竹彦	学籍番号 118853E
指導教員名	高倉実		
成績評価	学位論文 <input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験 <input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	
論文題目	Gender difference in the mediating effect of health-related behaviors on the relationship between neighborhood social capital and self-rated health among community dwelling people in a town of Okinawa		
審査要旨（2,000字以内） 本論文は主観的健康と近隣信頼感の関連について健康関連行動の媒介効果をみており、ヘルスプロモーションの政策に科学的根拠を与える重要な知見をえて論じており、博士論文として相応しいと判断し本審査での審議に諮ることを推薦した。1986年にオタワチャーターで提言されたヘルスプロモーションの戦略に基づき、世界各国・各地域で保健政策の一部にヘルスプロモーションが実施されてきている。しかしながらヘルスプロモーションの重要な要素である社会的環境作りが健康指標の改善に結びついているか否かは、エビデンスが少ないが現状である。この点から社会的環境作りとして、ソーシャルキャピタルに視点をあて、そのなかでも近隣信頼感をとりあげて主観的健康との関連をみている本研究の価値は一定の評価ができると考えた。また適切なモデルを使用した研究デザインの作成、妥当な尺度を使用した分析と適切な統計解析手法の使用から博士論文に値する			

研究内容であることも判断された。

予備審査において以下の3点を本審査までに改善することを助言したが最終審査において大きく改善がみられた。(1)対象地区が沖縄・西原町に限局しており、その選択した意義、サンプルの代表性を前向きに述べることによってさらに本研究の研究意義は高まると考える。(2)この研究から得られた結果・考察・提言から今後の研究の方向性を示すことが、エビデンスの一般化や政策提言につながる重要なエビデンスを導きだすと考えられるため、この点について言及することが本審査では必要。(3)ソーシャルキャピタルについて解説し、近隣信頼感になぜ着眼したのかわかりやすく説明することで審議を容易にする。

最終審査において、海外の論文の読み込みによる考察が示され、今後の研究の発展性が論じられた。特に年齢別の分析の必要性、ソーシャルキャピタルの質の検討の重要性が述べられ、今後の研究継続が大きく期待されることになり、博士を授与するに値すると研究者と考えられた。